

国際交流 ひろば

シリーズ



鳥取市では、現在2人の国際交流員（韓国・ドイツ出身）を配置し、地域や学校での国際交流のお手伝いを行っています。市民のみなさんに国際交流をより身近に感じていただけるよう、国際交流員の活動や姉妹都市交流などについてシリーズでご紹介します。

アンニョンハセヨ（こんにちは）。今年四月から鳥取市の新しい国際交流員になりました張日榮（チャン・イルヨン）です。お隣の韓国出身です。鳥取市のみなさんと市報を通じてお会いすることができ、大変うれしく思っています。今回は初対面ということで、自己紹介をします。

もなく専攻を日本語に決めました。大学は親元を離れてソウルにある韓国外国語大学に入学し、今年二月に卒業しました。

大学で日本語を勉強していたので、日本へ行くのが第一

の目標でした。しかし、韓国には徴兵制度があり、成人男子は軍隊生活を送ることが義務付けられています。そして、徴兵対象者は自由に海外へ行くことができません。絶対不可能ということではありませんが、海外へ行くための手続きが大変複雑なので（例えば、帰国保証人の必要など）、ほとんどの人は諦めてしまいません。私も泣く泣く海外渡航を約二年間待ちました。

日本行きの夢がやっと実現したのは大学二年生の時（一九九八年）のことでした。金沢市で一カ月間ホームステイすることができたのです。その時、日本家庭の心温かさや

勉強することができたのでした。留学を終え、韓国での卒業が迫るにつれ、また日本で何かしてみたい気持ちがいってきました。幸運にも夢は再びかない、同じ日本海沿岸の鳥取市に国際交流員として赴任することになりました。鳥取市のきれいな街並みと美しい自然に囲まれ、なんだか故郷に戻ったような気がする毎日、ホームシックにかかる暇はなさそうです。

はじめまして チャンイルヨン 張日榮です



親切、そしてきれいな自然と街並みに魅了されたから、韓国に戻ってからもっと長く日本で生活してみたいという気持ちで一杯でした。そしてその願いがかない、富山大学で昨年九月まで一年間、日本語を

日韓共催の二〇〇二年サッカーワールドカップも近づくなど、日本では韓国への関心が高まっているようです（鳥取市は、出場チームキャンプ地誘致を進めています！）。鳥取県でも米子・ソウル間に定期便が就航することになり、鳥取から韓国への旅がさらに便利になりました。こうした中で、国際交流員としての私の役割は非常に重要だと思えます。鳥取市のみなさんのご要望にお応えして、生き生きとした韓国情報をお伝えできるように一生懸命頑張ります。

みなさん、今後ともよろしくお願ひします。